
Research and Development

KYORIN RECRUITING BOOK

キョーリンの 研究開発



E

大掛かりな実験が必要な場合など、チーム内の他のテーマを手伝うことも多く、みんなでアイデアを出し合っってチーム一丸となって研究を進められる。

キョーリン製薬は少数精鋭の組織なので、個人が開発プロジェクト全体に関わって、開発の1から10まですべてのプロセスに活躍の場がある。

自分の考えを反映できるのは研究者としてはとても楽しく、やりがいを感じています。

チームがあるから、ひとりが活きる

実は厳密に分業されて個人的には面白い点。

薬づくりの全体研究者としてと恵まれた環境だ

人の仕事に関心を
持つようになり、
自分が持っている知識、
経験を人に伝えたいし、
周りからも意見をもらいたい
という気持ちが生まれるのだと
思います。

いないのも、

を見回せていて、
ても
と思います。

一般的に薬理はターゲットを見出す最初の段階に携わりますが、キョーリン製薬の薬理は、そこから臨床の手前、場合によっては臨床試験まで関わるのが特徴。

チームがベースにあると互いの仕事を理解して助け合うのが当たり前になる。

少数精鋭だから、多くができる

学生時代、研究はほとんど1人で
行っていたので、
チームでできるのは
とても新鮮。

他の研究者の得意技術を学ぶ絶好の機会であり、自分自身の成長に結びついている。

分子設計の部署が合成の中に配置されており、同じフロアに小部屋がある状態なんです。

CROSSTALK

チームがあるから、ひとりが活躍

合成研究 × 薬理研究 × CMC研究 座談会

キョーリンの画期的な新薬は、しなやかなチームワークから生まれる。研究者たちが枠組みにとらわれずディスカッションし切磋琢磨することによって、個の能力を高め、チームとして個を超えたパワーを引き出すのである。

チームワークこそが魅力

藤田 2人はチームワークがキョーリンの創薬研究にとって大きな強みになっていると思いますか？

津田 間違いなくと思います。そのバックボーンとしては、私たちがいる「わたらせ創薬センター」の存在がとても大きく、薬理から合成、安全性、薬物動態、CMCという創薬に関わる研究機能が一つの拠点に集約されている。製薬業界でも希なスタイルだと思います。

坂野 私も同感です。私がいるCMC研究所は、製剤設計・品質評価など創薬プロセスでも後期の開発を担う部門。津田

さんの合成、藤田さんの薬理といった初期の研究を行う研究所とは以前は違う場所にありました。それが「わたらせ創薬センター」に結集されたことによって、研究のスタイルまで変わってきたように感じます。開発の初期の段階から各分野の研究者と議論するようになり、研究の幅が広がりダイナミックになりました。

フットワークのよさが研究を加速する

藤田 チームというと、まず新薬開発のプロジェクトチームがあげられますね。各研究所からその分野のエキスパートが集まりチームを組みます。私は現在、アメリカの子会社、ActivX社と進めている共同

開発プロジェクトの日本側のリーダーを任されています。

津田 このような開発プロジェクトも、研究所同士の垣根が低いために小回りがきくのです。お互いすぐ近くにいるので、ちょっとしたディスカッションや追加試験の調整なども気軽にできる。スモールスケールのチームワークがキョーリンの強みだと思います。

坂野 そのフットワークのよさが研究を加速させています。

津田 それは実感します。他社と共同研究などで、時々お互いに課題を持ち帰って検討することがあります。そんな場合で



合成研究所

津田 浩輔

2011年入社
自然科学研究科専攻(修士卒)

CMC研究所

坂野 貴宣

2014年入社
工学研究科専攻(修士卒)

薬理第一研究所

藤田 元道

2014年入社
薬学研究科専攻(修士卒)



も、キョーリンはチームワークがよいので結論を出すまでが速い。相手から驚かれたこともあります。ほとんどの研究者が顔見知りという、組織が少数精鋭でコンパクトであることも大きいと思います。

藤田 昼休みに食堂でばったり顔をあわせて、いつの間にか研究の議論になることもよくありますね(笑)。

坂野 でもそれって、研究者にとってはと



ても大事なことですね。違う分野の研究者と日頃から議論することで新しい発見があるし、モチベーションも高まり自身の成長にもつながっていると思います。

サイエンスでは誰もが公平

藤田 それぞれの研究所もいくつかの研究チームで構成されていて、各自のテーマやプロジェクトについて日頃から情報を共有してサポートしあっていますよね。

津田 そのほかにも研究者たちが自発的に立ち上げるチームもあります。私は現在、新技術導入のワーキンググループのリーダーを務めています。自分が興味のある分野にも積極的に取り組みやすい環境です。

坂野 私も新しいDDS(Drug Delivery System)の構築を目指してプロジェクトチームを立ち上げました。各研究所からメ



ンバーが集まった横断的なチームです。

藤田 このような新しい研究テーマやプロジェクトの提案なども、ヤル気さえあれば若いうちからどんどん認めてくれますよね。これもまた、キョーリンの大きな特徴だと思います。

津田 チームというと上下関係のあるような集団を思い浮かべる人もいるかもしれませんが、キョーリンの場合、とてもフ

ラットです。若手でも臆することなくディスカッションに参加できて、それが優れたものならすぐに研究に組み込まれるような雰囲気があります。

坂野 みんな温かなように見えても、ディスカッションとなるとけっこう熱くなりますね。

津田 そうそう。誰もが安易に妥協するような感じではない。それは若手でもベテランでも同じです。

藤田 確かに。キョーリンには、サイエンスに関しては誰もが公平というような空気がありますね。

だからこそ、キョーリンは面白い

津田 今日の座談会はチームワークがテーマなのですが、じつは私、正直言うと自分の研究テーマに没頭したいタイプで

もあるんですよ(笑)。

藤田 それは私も同じです(笑)。私が携わる薬理の研究なんて未知のことばかり。研究室に籠もってひとりで頭を抱えてしまうようなこともよくあります。でも、それも含めて創業研究の面白さなのだと感じています。

津田 合成の研究はものづくりにも似ているんです。試行錯誤の後にピーンとヒラメキがやってくる……。それが醍醐味ですね。

坂野 でも、その研究者としての欲求は、チームワークとは相反するものではないと思いますよ。私の場合、幅広い分野の研究者と議論することによって逆に自身の専門性を意識しますし、足りないことに気づいてさらに自分の専門分野を極めようというモチベーションにもなります。深さと広さ。この2つをともに追い求められるからこそ、キョーリンでの研究は

面白いのだと思います。

津田 そのとおりですね。創薬という研究を心から楽しめること。それがキョーリンの一番の魅力なのだと思います。新薬の開発は道のりも長く困難の連続です。だからこそ、どんな時でも意欲をもって面白がって研究にチャレンジできる風土が必要なのだと思います。今日の私たち3人の会話から、そんな風土がキョーリンにあることが伝われば嬉しいです。



TOPICS

キョーリンの研究開発のこれから①

開かれたチームワークから
創薬のイノベーションが
生まれるKyorin 

近年、新薬開発における難易度はますます高まっています。その要因は、幅広い疾患で次々と治療薬が開発されており、創薬ターゲットはより難しい疾病へと移りつつあるためです。また、遺伝子解析技術の進歩とともに、医療の個別化という流れが顕著化し、新薬開発のアプローチにも変化が見られます。しかし、いまだにアンメットメディカルニーズは高く、画期的な治療薬の開発を待ち望んでいる患者さんが世界中に数多くいるのです。

このように医薬を取り巻く環境が変化するなか、2023年に創業100周年を迎えるキョーリンは世界の人々の健康に貢献する革新的な新薬を創製することを目指しています。そのために、ファースト・イン・クラス創薬への取り組みを継続するとともに、これまでの枠組みを超えた、新しい

領域や技術、研究スタイルへのチャレンジも始めています。

そのひとつの取り組みがオープンイノベーションです。困難な新薬開発をスピーディーに成し遂げていくためには、ひとつの組織の力だけでは限界があります。そこで世界の製薬業界では、製薬企業やベンチャー、アカデミアが有機的に連携するオープンイノベーションがさまざまな形で進んでいます。キョーリンも積極的に取り組み、すでにいくつもの成果をあげています。このオープンイノベーションは、キョーリンが得意とするチームワークをさらに外へと大きく広げた形ともいえるでしょう。キョーリンは、自らの研究開発力にこだわり進化させるとともに、オープンでグローバルなチームワークによって創薬の新たな可能性に挑んでいます。



安全性研究所

丸山 拓馬

2006年入社
先端生命科学専攻(修士卒)

開発部

小寺 宏実

2008年入社
薬学研究科薬学専攻

創薬企画部

西岡 達二

2006年入社
医科学専攻(修士卒)

CROSSTALK

少数精鋭だから、 多くができる

安全性研究 × 創薬企画 × 臨床開発 座談会

キョーリンでは、ひとりの研究者が幅広い領域に携わっている。若いうちから広い視野で研究に取り組むことによって、創薬研究者としての資質を鍛えていく。この少数精鋭の研究風土もキョーリンならではの魅力だ。

縦割りでない、幅広い研究を

丸山 ひとりの研究者が携われる範囲が広いこと。これもキョーリンの研究の面白さだと思います。

西岡 大手の製薬会社と比べると研究の組織自体がコンパクト。研究者も少数精鋭という雰囲気がありますね。

丸山 私は、入社以来ほぼ一貫して安全性研究に携わっています。新薬開発における安全性研究というと、候補化合物に対する毒性の評価が中心になりますが、研究はそればかりではないんです。見つけ出した毒性に対して、そのメカニズムを

解明してリスクを回避する提案や、その後の展開を見越した評価方法の構築など、取り組むべきテーマは数多くあります。製薬会社によっては、このような一連の研究を縦割りのように細分化しているところもあるようですが、キョーリンではひとりの研究者がすべて経験することができる。そこが魅力だと感じています。

小寺 私の所属する開発部は、創薬の最終ステージである臨床開発を担当する部門です。3つのフェーズからなる臨床試験と承認申請が主な仕事となります。キョーリンでは、臨床開発計画の立案から推進、モニタリング関連業務、そして承認申請業務まで開発部が広範に

携わる、という点が大きな特徴であり、魅力だと思います。

西岡 私は現在、創薬企画部において、次世代の創薬のためのテーマやシーズ、新技術の探索を担当しています。それ以前は、入社してから13年間、薬理の研究に携わっていました。

丸山 実は、西岡さんと私は同期でして。新薬開発プロジェクトで一緒にすることも多く、よく熱くディスカッションしていました(笑)。

西岡 そうですね(笑)。そんな若い頃を振り返ってみても、やはり幅広い研究を

キョーリンの特徴：2

任されてきたなと思います。印象的だったのは、入社1年目からin vitroとin vivoの病態モデルの構築から評価までを経験できたこと。細胞レベルの現象からどうして病気になるのかといったことまで薬理の研究の流れを若いうちから学ぶことができました。

また、自分が任されたテーマ以外にも、同じチーム内の先輩のテーマを手伝ったり、常に多くのテーマに関われるチャンスがある。他の製薬会社の研究者などの話を聞いても、こういう研究風土は数少ないように思います。

若いうちからチャンスがある

丸山 いま西岡さんが言った「若いうちから任せられる」ということもキョーリンの大きな特徴かもしれません。

安全性の研究では、候補化合物のあらゆる毒性を見つけ出し評価しなければなりません。そのためにも、若いうちから多様な経験を積んで学ばせるというスタンス

で私も育てられました。

小寺 臨床開発の場合、基本的な知識を身につけるためにも、若手のうちは臨床試験の推進が仕事の中心になります。けれども、そればかりでは人は育てられません。チームの若いメンバーも含めて、臨床開発の戦略や計画に係わる、創業全体を見渡せる情報を積極的に共有して、幅広い視野を培えるように組織的に取り組んでいます。

西岡 私も小寺さんと同じように思います。薬理の領域では、それぞれ専門ごとに細分化して研究した方が、ひょっとすると効率的なのかもしれません。しかし、それでは研究者は育たない。広い視野で研究に取り組まないと、なかなか体や病気といった全体的なことを掴めません。その結果、独創的な創業テーマを見出すことも難しくなり、創業という高い視点で考えるとプラスにはならないと思うんです。

新薬を生み出すための視点

丸山 私は、キョーリンのようにそれぞれの研究者が幅広い分野に関わっていた方が、創業としては結果的に効率的ではないかと思っています。たとえどんなに自分の専門分野を突き詰めていっても、西岡さんが言うように全体を見渡せる力がないと薬は創れないわけです。創業の研究をしていると、「えっ!」と驚く世界の誰も知らないような現象に出会うことがあります。そんな発見を、サイエンスとしてどう捉えていくか。そのためにも多様な経験を持っていた方が絶対にいいし、なによりもその方が研究は面白いはず。

西岡 私自身の経験でいうと、そういうスタンスで研究を続けていくと、より大きな視点で体や病気のことを考えられるようになってくるんです。それがまた、自分の専門領域を深めるのに役立つし、新しい研究テーマにもつながっていきます。私はいま、新しい創業テーマの探索に携

わっていますが、薬理の研究者としての13年の経験がかけがえのないバックボーンになっています。

小寺 高い視座と広い視野が重要ということでは臨床開発も同じだと思います。私たち開発部では、研究所から「薬の候補」を引き継ぐところから仕事が始まります。つまり、「First-in-human」の臨床試験を企画していくわけです。この化合物の特徴は？ 医療現場のニーズは？ 承認申請に向けてどのような臨床データを集積すべきなのか？ 研究所のメンバーや医療現場の先生と一体となって「薬」としての将来像をイメージしながら化合物のポテンシャルを見出して「薬」にまで育てていきます。そこがキョーリンの臨床開発の一番のやりがいだと思います。

可能性の扉は大きく開かれている

小寺 私自身もそうでしたけど、学生の頃は製薬会社の開発や研究についてなかなか具体的なイメージが掴めないと思うんです。そういう若い人たちにとっても、まず幅広い経験を積んでそこから自分の専門領域を見つけ出していくことができるキョーリンの研究風土は魅力的だと思います。

丸山 キョーリンでは、最初から大きく扉が開いているようなイメージです。自分の可能性を試してみたいと思うチャレンジングな人なら必ず面白い研究に出会えるはずですよ。

西岡 そういう前向きな気持ちがあるかぎり、やれることは無数にあるし、その分だけ成長もできる。創業の研究者として進化しつづけたらという人にとってびつたりのフィールドだと思います。





TOPICS

キョーリンの研究開発のこれから②

新たな領域、革新的な技術へ
アグレッシブに挑んでいく



キョーリンは、研究領域を絞って研究リソースをそこに集中することで独創的な新薬を開発し、低分子医薬を中心に独自の知識と技術を蓄積してきました。そして今、そこからさらに踏み込み、新たな領域を視野に入れたチャレンジをスタートしています。

科学の進展とともに新薬開発のスタイルも変化しつつある現在、従来の低分子に加え、中分子化合物、核酸医薬、遺伝子治療など、創薬の手法も新たなアプローチが注目されています。たとえば、AIをはじめとするコンピューティングの進化は、創薬のスピードを格段に高め、ターゲット探索などにも新たな可能性をもたらそうとしています。

キョーリンは、このような変化に常に視線を注ぎ、研究所内で活発な議論を重ねています。これまでの実績にとらわれ

ない新しい研究領域、革新的な技術への取り組みをアグレッシブに進めていこうと試行錯誤しています。その新たなチャレンジの担い手になるのは、言うまでもなく、若い研究者たちです。研究者の育成は、未来にわたって継続的に研究開発力を高め、キョーリンが製薬会社として成長していくために欠かせません。だからこそ、キョーリンは人材育成に力を注ぎ、若手にこそ積極的に成長の機会を用意しています。

薬学系にとどまらず多様な個性とバックボーンをもつ人材を結集し、より「個」の力を深めることでチームとしての力を最大化していきます。また、国内外の共同研究などオープンなフィールドでも若いうちから多様な経験を積ませ、次代の創薬を牽引する研究者の育成に取り組んでいます。



ホンネで キョーリンを 語ろう

CROSSTALK

いつでも気軽に議論できる雰囲気

森田 この3人は2018年入社の同期なので、それぞれ研究所は違いますが、日頃からよく話をしますよね。

佐々木 「わたらせ創薬センター」の野球部でも同じメンバーだしね(笑)。

水野 キョーリンは、研究所同士の垣根が低く、同期に限らず違う研究所の先輩などでも気軽に話ができる雰囲気がありますね。やさしくて穏やかな人が多いということもあると思うけど。

佐々木 それは僕も感じる。もちろん、研究に関わる議論などでは熱くなる場合もあるけど、基本的に温和な印象の人が多いよね。人間関係で困るようなことは少ない。

森田 殺伐というかドライな関係ではなくて、どこか温かみのある空気感がありますね。

水野 それってひょっとすると、研究を取り巻く環境が恵まれてい

ることも関係しているのかもしれないね。スポーツとかアクティビティを楽しむのもすごく便利だし。私は、ここの自然豊かな環境をすごく気に入っています。

森田 水野さんは独身寮に住んでいるから、研究所まで通勤時間10分という環境なんだよね(笑)。

佐々木 野球にゴルフ、テニス、ランニング、冬はスノーボード……。確かにみんな、オフタイムでもアクティブですね(笑)。

水野 ここにいる森田さんには、実は国体セーリング競技の県代表選手という横顔もありますから(笑)。

自ら学ぶ意欲を先輩が応援してくれる

森田 いまでも覚えているんだけど、入社1年目のとき、僕が書いた研究レポートをweb経由でたまたま他の研究所の先輩が目にとめて、わざわざメールで丁寧なアドバイスをもらったことがあります。

佐々木 すごいね(笑)。僕はそこまでの経験はないけど、キョーリンには若手を真剣に育てていこうという研究風土がありますね。

森田 あと、直属の先輩が毎週勉強会を開いてくださり、創薬化学のイロハをみっちり教えていただいたことも印象深いですね。

水野 私たち3人が参加した勉強会だよ。毎週のように様々なテーマで勉強会を実施いただいて、結局その先輩は1年くらいサポートし続けてくれました。各テーマに詳しい先輩に声をかけて、講義しに来てくれることもありました。

それと、私は薬学部出身ではないので、どうしても薬理の実践的な知識が不足がちで……。そこである日、薬物動態研究所の先輩に相談に行ったら、私のためにわざわざ勉強会を開いてくれたのでとても勉強になりました。

佐々木 勉強会ばかりでなく、先輩たちが自主的に立ち上げるワークショップなども活発です。研究所の枠組みに関係なく、若手でも気軽に参加できる。僕は、いま、機械学習関連のワークショップに参加しているのですが、やはり同じ関心を持つ研究者たちが集まるので、とても刺激的です。



佐々木 一成

薬物動態研究所
2018年入社
生命薬科学専攻(修士卒)



水野 苑子

薬理第一研究所
2018年入社
生命医科学研究科専攻(修士卒)



森田 暁洋

合成研究所
2018年入社
総合薬品科学専攻(修士卒)

新しい創薬研究の担い手として

水野 佐々木さんは、「わたらせ創薬センター」で毎年行われる研究発表会で優秀賞を獲得しましたね。

森田 そうそう、あれはすごい(笑)。

佐々木 あれは僕の専門の薬物動態の研究とはちょっと違い、学生時代から取り組んでいたある解析手法がテーマ。入社してから、キョーリンの創薬研究でも今後必要になる技術だと思い、1年目の時に上司に相談してみたら、それがきっかけとなって動き出し、最近ではそれなりの予算のつくプロジェクトになってきて驚いています(笑)。

水野 日々の研究ということだと、私の場合、チームリーダーのサポートのもと、他部署と協力した創薬研究テーマの推進と、そのプロジェクトを支える薬理的な基盤研究を並行的に進めている感じです。それでも今年度から、その研究テーマのリーダーを任せられるようになりました。

佐々木 それもすごいね(笑)。3年目でチームリーダーというのは創薬研究ではそうとう早いステップだと思いますよ。森田さんはどんな感じですか？

森田 水野さんの薬理と違って、僕のいる合成研究所では研究のスタイルも違うので、まだそこまで任されているという感じはないです。でも最近では、合成の研究者として主体的に関わるようになったプロジェクトもあり、研究への意識も変わってきました。

佐々木 キョーリンでは、海外の研究所や国内の共同研究などへの出向・派遣でも、若手にどんどんチャンスを与えています。これから新しい創薬研究に挑み、その担い手として若手研究者を育てていこうという意思を常日頃から感じます。

研究職のとある1日

薬理第一研究所 藤田さんの場合

8:30 出社

パソコンを立ち上げてメールをチェックする。続いて行うルーティンワークがインターネットでの情報チェック。特許や論文、業界ニュースなど、自分の専門領域である感染症や炎症性疾患などの最新情報をリサーチ。重要な情報についてはチームのメンバーに送信して共有する。



11:00 実験

新規治療薬に向けたターゲット因子の妥当性を検討。このような創薬ステージの早期段階のテーマから臨床試験手前のものまで、薬理研究者として複数テーマの研究に取り組んでいる。



14:00 実験

実際の病態を反映させた動物モデルを用いて新薬候補物質を評価。実験後、その結果を上司に報告し、テーマの方向性などについて議論する。



9:00 ミーティング

自分がリーダーを務める研究チームのミーティング。各メンバーの研究テーマの進捗状況、課題などを話し合い、方向性などを検討する。この日は続いて米国子会社、ActivX社とのテレビ会議。共同で進める新薬開発プロジェクトについて打ち合わせる。

13:00 ミーティング

炎症性疾患に関わる新薬開発プロジェクトのミーティング。各研究所から参加するメンバーと方向性の確認などについてディスカッション。このプロジェクトにおいてもリーダーを務めている。



18:00 退社

OFFTIME

趣味はテニス。小学校時代に始め、現在も学生時代の仲間とチームをつくり、東京都の社会人リーグに参戦している。そのほか、妻の趣味に付きあっているうちにハマった宝塚歌劇も最近の楽しみのひとつ。長い休みがとれた時には夫婦で旅に出かける。



開発職のとある1日

開発部 小寺さんの場合

8:30 出社



最初のルーティンワークはメールのチェック。その後、資料の作成やレビューなどデスクワークを済ませる。

11:00 ミーティング

臨床開発でも後期にあたるフェイズの臨床試験についてプロジェクトのメンバー、時には共同開発先やCROと打ち合わせ。試験の進捗状況を確認し、課題などの情報を共有して、プロジェクトの方向性について話しあう。



13:00 社内勉強会

臨床開発に関係する社員を対象とした社内勉強会に参加。最新の規制や各種事例などの情報を共有する。外部講師によるセミナーなどもある。常に最前線の情報を収集し、業務に取り入れるように心がけている。



OFFTIME

最近、ベランダ菜園を始めた。シソ、バジル、オクラ、春菊、大根……。日々成長する姿が楽しくて仕方ないという。国内の島を巡る旅も趣味のひとつ。小笠原諸島ではイルカと一緒に泳いだそうだ。



ワークライフバランスへの配慮

多様な社員たちが、仕事のやりがいやプライベートの充実感を得られるよう、仕事と生活の調和を目指して社員と会社が協調し、働きやすい環境を整備しています。

働きやすい環境の整備

柔軟な働き方	フレックスタイム制 / 出産・育児における短時間勤務 / 介護における短時間勤務
休業・休暇	産前産後休暇 / 育児休業 / 配偶者出産休暇 / 子の看護休暇 / 介護休暇 / 介護休業 / 時間単位の有給休暇 / 積立年休 / リフレッシュ休暇
時間外労働抑制	労働時間管理の徹底・フォロー / 有給休暇の取得促進

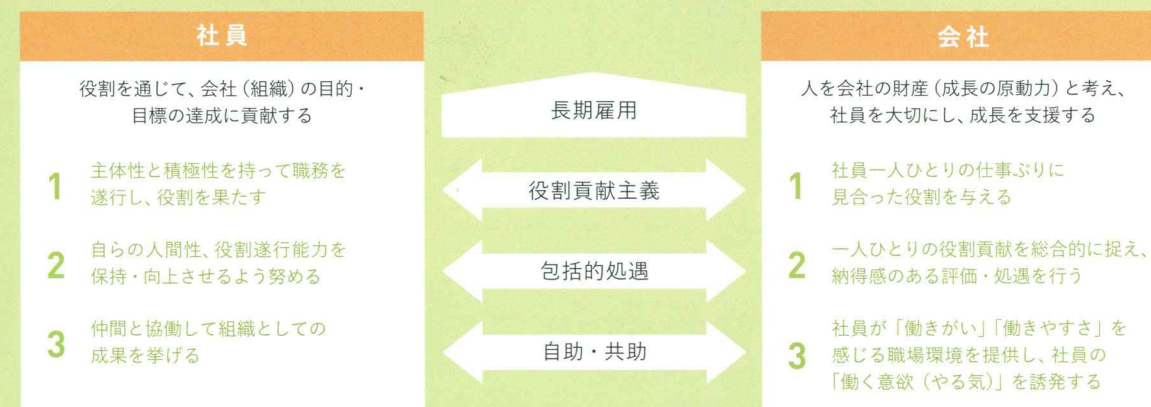
ライフステージの変化を考慮した福利厚生・健康への配慮

住宅支援	社宅・寮 / 住宅支援金 / 単身赴任手当 / 帰宅交通費
生活支援	家族生活支援金 / 出産育児支援金 / 入学支援金 / 保育園料補助 / 遠距離介護支援 / 昼食代補助
ヘルスケア支援	健康診断 / 健康維持・増進支援（保健師面談・相談、社外相談窓口） / メンタルヘルス教育
レクリエーション支援	野球・サッカー社長杯 / コミュニケーション促進（職場内イベント費用補助、旅行、クラブ活動補助）
その他	財産形成支援（社内預金、財形貯蓄、持株会補助） / 慶弔見舞（結婚祝金、傷病・災害・介護見舞金） / 永年貢献表彰 / ジョブ・リターン制度

人材マネジメント方針

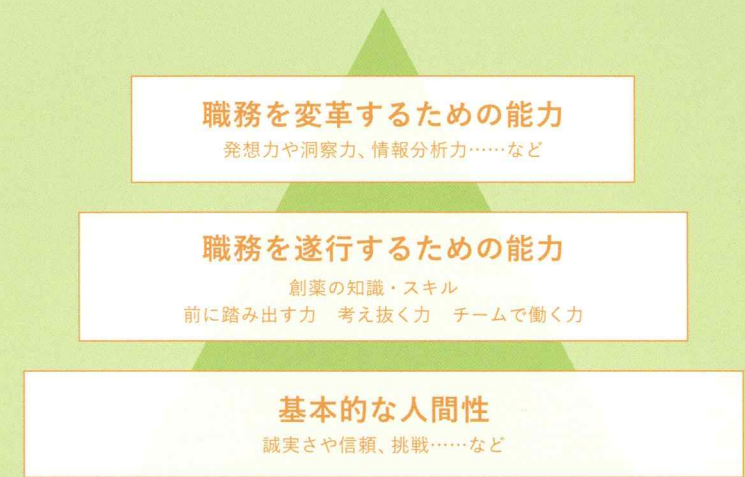
社員と会社は、双方から期待される責務を、長期にわたって継続的に果たすことを通じて、相互の利益を実現するパートナーだと考えています。

社員と会社の関係は、“長期にわたる互恵的な協力・共生関係”



研究開発職における教育・研鑽

キョーリンの研究開発職では、「基本的な人間性」をベースに、「職務を遂行するための能力」と「職務を変革するための能力」の3つに大別して求める能力やスタンスを整理し、人材を育てていくことを目指しています。



社員それぞれの状況に応じた成長機会として、各種研修制度や能力開発プログラムを用意しています。

研究開発職における教育・研鑽の全体像

職群	基幹職		統轄職
入社後年数	1～3年		4年～
人事部教育	新入社員受入教育	2年目研修 3年目研修	階層別プログラム 統轄職研修
自育支援	通信教育支援、語学スクール支援、自主留学支援、資格取得支援、社外セミナー補助、TOEIC受験料補助		
創業本部教育	創業本部若手社員教育 創業本部配属2～3年を基礎力養成期として位置づけ、R&D人材として備えておくべき素養（社会人の基礎、創業の基礎知識）を身に付け、自己の方向性を確立する。		
わたらせ創業センター教育	研究発表会 社外講師講演会（専門分野）		
臨床開発センター教育	モニター導入教育／継続教育 チームワーキング 社外講師講演会（専門分野）		
社外教育	当局／業界関連団体主催のセミナー・研究会等への参加		
自育支援	OJT、専門教育、倫理教育、業務報告会、勉強会・ゼミ、学会参加		

創薬への真っ直ぐな想いを抱く、 未来の研究者たちへ キョーリンが伝えたいこと。

たとえ新薬開発の難易度が高くなっても、どんなにテクノロジーが進歩しようとも、世界にはいまだ有効な治療法が見つからない希少疾患で苦しむ患者さんが数多くいます。その患者さんとともに悩む家族がいて、難病に最前線で懸命に向き合う医療に携わる人々がいます。

創薬とは、そういう人たちのために、新しい薬をつくる仕事です。数あるものづくりの中でも、使命感にあふれる、とてつもなくやりがいの大きな仕事です。

しかし、それだけに困難も大きい。開発には長い年月がかかり、そのうえ成功確率は気の遠くなるような数字です。いくつもの困難な壁にぶつかり、失敗を目の当たりにして心が折れそうになることも数多くあります。

だからこそ、キョーリンは思うのです。「新薬をつくりたい」という真っ直ぐな想いを忘れないでほしいと。その強い意志をどんな時でも抱きつづけること。そして、前向きにチャレンジしつづけること。

私たちは、この姿勢こそが研究者がなによりも大切にすべきものであると信じています。そんなビュアな志を抱き、私たちと一緒に創薬に挑んでいく、若い力にひとりでも多く出会いたいと心から願っています。



キョーリン製薬株式会社

<https://www.kyorin-pharm.co.jp/newcareer/recruit/>